

第 236 号 発行日 平成 28 年 9 月 1 日

# 合格通信

今  
月  
の  
名  
言

現在のあなたは、過去の思考の産物である。そして明日のあなたは、今日何を考えるかで決まる。

— ジェームズ・アレン —  
(イギリス哲学者)

2学期がスタートしすぐに、実力テスト、体育祭と続きさらに新人戦、合唱コンクール、文化祭があります。行事が多いのですが、勉強のほうも1学期に比べ英語数学とも一段と深化し、差がつきやすい時期でもあります。皆さんは毎日の学習をしっかりと行い、差をつける方となりましょう。

先日8月の新みやぎ模試の結果が却ってきました。矢本二中の1年生は5教科441点を叩き出してくれました。仙台一高も圏内です。受験までこのレベルを維持してほしいです。



## 志望校はどう選ぶべきか。

### 子どもの将来を見据えた選択

「鶏口牛後」という言葉があります。大きな集団や組織の末端にいるより、小さくてもよいから長となって重んじられるほうがよいということ。受験でいえば「レベルの高い高校の末席にいるよりは、ランク下の高校でも上位にいたほうが良い」と解釈できますが、これは高校受験の志望校選びのベストな選択ではありませんし、その後の子どもの人生にもプラスになりません。上位校に末席で入っても3年間そうであるとは限りません。たとえビリで入っても、その後グッと伸びる生徒もいます。一方でランクを落として上位で入学しても常に上位にいるとは限りません。どの高校でも高校の勉強は難しいのです。やはりその後の本人の努力次第なわけですが、いいかえれば「入学したときの心構え」で決まると思います。トップ校に上位で入っても、卒業時にビリということも珍しくないのです。ですから、子どもが「自分で決めて受験する」のが大切です。中学の担任や親に決められるのではなく、本人が行きたいところに自分で決めて入ることです。そうであれば、たとえビリで入っても必ずがんばります。

過去に中学入学当初より2ランク上の高校を志願した生徒がいました。それは大変な勇気がある決断だったと思いますし、その後のこの生徒の頑張りや、尋常ではなかったのです。別人のように勉強し始めました。ただ、定期試験とは異なり、模試や実力テストとなると、勉強し始めてもすぐに結果が出るものではありません。3~4ヶ月頑張っただけでようやく伸びてきます。そこまで努力を持続できるかが問題です。この生徒はやり続け、模試でも少しずつ伸びてきました。結果的に入試本番の点数が自己ベストで合格しました。一生懸命に頑張ってきた結果です。こうしたプロセスを経験した生徒は努力すること勉強することの重要性を、身を持って学ぶわけですから、その後の人生にそれが生きてきます。知識を身に付けて、人の役に立つ仕事につく、人から感謝される。それこそが幸福な人生といえるのではないのでしょうか。